

マニュアルハウス

〒929-1332 石川県羽咋郡宝達志水町
北川尻7-28
TEL090-4567-3103 FAX0767-28-4256
Eメールokadammm@muse.ocn.ne.jp

新刊の案内

2020年04月刊行書籍

『美術と私たちの近・現代』

著者：吉村良夫

四六判並製本 定価2,000円+税

美術と私たちの近・現代

吉村良夫

自覚を中絶する気にならぬ故
 普通の人々と美術家の間に
 隙の二〇世紀 ―ピカソとロスロ
 美術品は社会状況にも目撃力を
 大衆社会の崩壊と美術批評をめぐって
 パンク時代の破壊的グラフィック
 都市の共生感探る清水九段の彫刻
 前衛感覚を極めて法外なる北山善夫
 夕空と木も一体北新百貨の総合色彩
 東京と神戸の異質な風景から一尾の三
 瀬尾忠雄の多彩な表現と具象志向
 現代の大衆感覚を探る相谷幸二
 アパログニッチ 戦争体験から脱却「不発用」
 クリスト 染しませ十九日で消えるアンブレラ
 開かれた扉を閉ざすシンガー
 言葉とままだにアパログニッチ(国際美術展)
 パリで見た日本の奥深さ―松谷武判
 心のつた手になりすます高村敏昌
 手舟の渡りて一―羽田を下るまで
 戦中少年の思い出 逃げた想像人の運命
 南仏で見た日本の現代彫刻風から
 パリで余良の仏の素晴らしさを見直す
 初夏のジャゼリせいり 空野外郎
 日本人がローマを好きになる理由は何か
 没後の見直し―藤田ワカ
 イサム・ノグチ 東西両方の美意識
 定型とも通じる宮村浩の5字前画
 具象と抽象に同じ情熱 羽田浩太郎
 高田謙二 息子の口癖と日本美術論
 江戸の美術を心の駆け橋とされた人
 前衛としての取組 藤田ワカ
 熱い想像に世界が注目
 阪南大校としての日本
 先頭感覚を伝える意欲
 小豆島で国際的な彫刻シンポジウム
 信楽の山荘で執行的な世界観展覧
 ヒロシマで現代史を語る国際交流展



朝日新聞の美術記者として約40年、その後も美術ジャーナリストとして、独自の視点で書き上げてきた数多の原稿から、現代を問い直す記事を厳選しまとめた。記者時代から他にはない視点で問い続けた美術批評は未だに閃光を放っており、読み応えがある。

著者略歴

昭和14年3月24日新潟県中頸城郡新井町(現・妙高市)生れ。昭和16年～21年満州国奉天市(現在は中国人民共和国瀋陽市)在住。昭和21年9月に帰国。昭和34年京都大学入学(文学部)昭和37年～平成6年朝日新聞社に記者として勤務。平成7年美術評論家連盟に加入。平成7年～11年パリ在住。平成12年～24年の間に数年間ずつ夙川学院短大、薫英女学院短大、大阪国際大、神戸親和女子大に勤務。

注文書	番線印	ご担当	発行：マニュアルハウス	分野 文学・随筆
		ご注文	美術と私たちの近・現代 著者：吉村 良夫	
		部	四六判並製本 定価 2,000 円+税 新刊 ISBN978-4-905245-14-8	

ご注文は、JRC (人文・社会科学書流通センター) へ TEL.03-5283-2230 FAX.03-3294-2177